



佛伊條約改正ニ付アレキサンドルブオンシーホルト民ノ報告

1069



114  
A 4478



東京一千八百七十九年四月十七日

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈



羅馬癸シニテ拙兄ヨリ今般佛伊兩國ノ間ニ取結ヒタル新条約  
ノ事ニ就キ閣下ヘノ報告ヲ送越候間即チ謹テ御轉達仕候也

ヘンリー・フォン・レーボルト 敬白

大藏卿大隈重信閣下

大藏省

一千八百七十九年一月二十五日羅馬條

第一号

本月五日ニ於テ伊国政府ハ佛国ト取結フヘキ貿易條約ノ稿ヲ  
終レリ尤モ永久ニ保維スヘキ完全ナル條約ヲ取結フハ兩國ノ  
間何レニ取リテモ容易ノ業ニアラザルニ付キ今回ノ條約稿案  
ノ如キモ仮條約ニ外ナラザルナリ蓋レ旧條約ノ満期至ルニ際  
レ昨年中伊国ハ一ノ條約案ヲ製シ之レヲ佛国ノ議院ニ送供レ  
タリレニ該案ハ伊国ノ便利ニ偏ナリシヲ以テ佛国ノ議院ハ之  
レニ可決セザリシ而シテ今回ノ條約案ノ如キモ亦批准ヲ得ルニ  
至ル前ニ兩國議院ノ可決ヲ經カルヲ得ザルナリ

右新條約案ノ第一條ニ於テ兩國ハ互ニ「ワ」トシテ「ワ」トシテ  
井、モスト、フエ、ト、ヴァ、ル、ド、子、レ、ヨ、ン、ト、外、日、行、マ、ル、我、カ、日、本、国  
トク、甲、乙、ノ、同、ニ、條、約、ヲ、ナ、ス、ト、並、ニ、若、シ、甲、乙、ニ、セ、ヨ、一、ニ、便、利、ナ、ラ、ハ、此、ノ、便

利ヲモ係セ占ムルノヲ約スレ此ノ約束ノ精ハ唯一千八百  
 七十八年十二月二十七日ニ稿ヲ終リシ伊澳間ノ条約実行セ  
 ルニ至ルカ又ハ依然右兩國間ノ旧条約實行セラルニ於テ  
 ハ佛國ハ之レカ便利ヲ俟占スルヲ得ルト云フニ外ナラサルナ  
 リ  
 別紙佛伊ノ条約案中税則表ハ佛國ノ普通税則ト今般モスト、  
 佛國ノ条約案ニ依リテ伊國ニ許サントスル  
 所ノ税則トノ間ニ大差違ヲ示スヲ以テ頗ル閣下ノ参考ニ供セ  
 ンコトヲ必要トス候令ハ、草ノ如キ普通税則ニ由リテハ三拾貳  
 圓ヲ拂ハサルヲ得カレモスト、右トダテ、子レヨシ約  
 ニ由レハ僅カニ貳圓ヲ拂フノミ然リ而シテ余ハ左ニ日本ヨリ佛  
 國ニ輸入スヘキ物品ヲ掲ケ俟セテ普通税ト特別税トノ差ヲ明  
 示ス可シ

物	品	普通税	特別税	差
精米	志ノイニ付 百斤十磅ニ 当ル	〇、七二	〇、七二	〇、六〇
草	大 同	一〇、八〇	二、〇〇	八、八〇
公	小 同	二、八八〇	貳、〇〇	二、六八〇
無地色絹織物	志ノイニ付 百斤十磅ニ 当ル	三、八四	無	三、八四
絹組	類ノ同	一、九二	八〇	一、一九
木細工物	原價	志割八分	無	志割八分
陶器		一、四四	無	一、四四
土器		志割七六	無	一、一七六

右ノ表ハ則チ日本カ佛國トモスト、  
 義ノ条約ヲ結フノ利便ヲ得ルニアラカレハ日ニ産物ハ佛國ニ

輸入ノ上実ニ苛重ノ税ヲ課セラル、ヲ明示スルニ足ルベシ察  
スルニ博覽會中諸方ノ出品ニハ右特別ノ税則ヲ用ヒタレバニ  
升物産會社ヨリ輸入セシ物品ニハ右特別ノ税則ニ送フヲ拒絶  
シタリ尤モ結局如何ナル哉夫ニ至リレバ詳知セカレ何様  
確然兩國ノ間ニ貿易条約ヲ取結フニ非ラサルヨリハ佛國政府  
ニ取リテハ日本ヨリ輸入品ニ特別税則ヲ用ユルノ義務ナキヲ  
以テ仮令ヒ日本ニ輸入セル外國ノ貨物ハ僅カニ元價ノ五分若  
シクハ五分以下ノ税ヲ拂フニ過キサルニモセヨ政洲ニ輸入セ  
ル日本貨物ニハ已ムヲ得ス右表ニ記載セルカ如キ重税ヲ拂  
ハサルヲ得サルナリ

一千八百七十六年中佛國博覽會ノ件ニ付キ余カ始メテ閣下ニ  
報告ヲナセシ覺昏ノ意ヲ記臆セラレヨ該覺昏中既ニ日本ノ諸  
開港地ニ在ル外國商人ボノ手ヲ藉ラスレテ日本商人カ政洲ト

直接ノ商賣ヲナスノ必要ナルヲニ就テハ縷々論述シ而メ當時  
余ハ政洲ノ需要ニ供スル日本貨物ノ輸入税割合ヲ一定スルノ  
緊急ナルヲニモ論及シタリキ然ルニ今ヤ時運至リテ佛英ノ諸  
國ニ日本ノ商店ヲ開設スルノ幸機ニ際會レタレハ余ハ敢テ  
此ニ日本政府カ各國ニ對シ別々ニ税則ヲ定メ其ノ割合ノ如キ  
ハ日本ニ於テ各國ヨリ輸入セル貨物ニ課スル所ノ割合ニ送ル  
ノ必須ナルヲ再述ス可シ夫レ日本國ニ於テ理財上ノ奈達ハ  
偏ハニ外國ニ於テ日本ノ貿易及ヒ工業ノ為メニ成ルヘキ丈ケ  
輕税ヲ拂ヒ希クハ自他諸國カ其ノ貿易及ヒ工業ノ為メニ拂フ  
ヨリモ一層輕カラシムルノ途ヲ開クニ在ルノニ何トナレハ右  
ル日本産ノ貨物ニレテ他國産ノ同貨物ヨリモ一層寛大ニ取扱  
ハル、ノ便ヲ得ルキハ日本産ノ貨物ハ則チ他國産ノ同貨物  
リハ幾許カ廉價ヲ以テ賣却スルヲ得ヘキニ

之レヲ買収スヘケレハナリ然ルニ今日ノ現状 觀ルニ日本ノ  
産物ハ何レノ國ニ於テモ外國ノ同産物ニ比スレバ尠割及テ得  
レラハ殆ド三割以上ノ税ヲ課セラル、<sup>蓋</sup>甚タ遺憾ト云ハ  
サル可ケンヤ日本ハ獨立ノ一帝國ナリ然ラハ之レニ尾スル國  
有ノ帝權ニ由テ其ノ税則ヲ勝手ニ定ムルノ権理ヲ有ス可シト  
論理ハ今日マテ常ニ(歐洲ノ諸國トテモ條約ニ繫カル、以上  
ハ決シテ十分ニ此ノ権理ヲ有セサルト)駁議ニ遭逢シタリキ  
然リ<sup>蓋</sup>至ニ歐洲ノ各國ハ互易ノ法ヲ兼諾セサルヲ得サルノ理  
アリ又必ス之レヲ兼諾ス可キナリ例ハ日本カ英國ニ向ニ貴  
國ハ我國産ノ茶烟草ニ何分或ハ何割ノ税ヲ課スルナラハ(英國  
カ其ノ歲入ノ大半ヲ此貳品ニ取ルハ人ノ能ク知ル所ニシテ且  
ツ此ノ貳品ハ共ニ日本ヨリ輸出ノ物品ナリ)我カ日本國モ亦貴  
國産ノ毛布綿布ニ同様ノ税ヲ課ス可シト云ハ、誰レカ之レヲ

日本ノ非理ト云フヲ得ンヤ且ツ之レト時ヲ同フレテ我カ日本  
國ハ英國ニ向ヒ若シ貴國カ將來我カ茶烟草ノ税ヲ支那ノ茶煙  
米利加ノ烟草ヨリ一層減シテ我國産ニ便益ヲ與ヘナハ我國モ  
亦貴國ノ毛布及ヒ綿布ニ同様ノ便益ヲ報フヘシト云フヲ得  
可シ右ハ最モ適當ニシテ固然スヘカラカルノ論理ナリ故ニ若  
シ日本ノ産物ニ重税ヲ課スルノ國アルニ於テハ日本モ亦該國  
ノ産物ニ課スル重税ヲ減セサルノミナラス更ニ輸入税増加  
ヲ請求スル最良ノ地位ヲ占ムルヲ得可シ而シテ増税ヲ請求スル  
ニ一國ニ益アルトハ他國ニモ亦自カラ便アリトノ論理ヲ以テ  
セハ斯ル國々ハ決シテ之レニ答フルノ辞ナカル可キナリ  
若シ閣下<sup>此</sup>ノ幸機會ヲ失ナハスレテ日本貿易ノ便益ヲ歐洲  
ニ得ント欲スル<sup>余</sup>ノ意日ヲ容レ賜ハ、實ニ余ノ幸之レト  
サルナリ斯ル幸機會ハ決シテ復タアル可キニ、ラス今日ヲ失

ナハ、再ヒ彼我貿易ノ便ヲ互易スルノ幸機ヲ、  
ルヘシ余カ今日ヲ以テ幸機トナスモ、他ナレ  
日、日本國ノ威縮セン、ヲ希望スルノ秋ニシテ且ツ將來日  
ノ政洲ニ於ケル直接貿易ノ發達如何ヲ豫知スルモノ殆ド稀ナ  
ルニ由リテナリ、然レモ獨リ余ハ既ニ之レヲ豫知ス而シテ日本  
數年ノ後ニ於テ海外諸國ノ上ニ抽テシ、ヲ希望スルノ切  
ナルニ由リ聊カ愚見ヲ陳、以テ閣下ノ高覽ニ供ス冀クハ取捨  
シ賜テシ、ヲ恐惶謹言

バロン、フィン、レールト

大藏卿大隈重信閣下

大藏省